

このたびは、パールドラムセットをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
 思わぬ事故やケガを防ぎ安全にご使用いただくため、製品をご使用になる前に、本書を必ずお読み下さい。

■パッキングリスト このパッケージには以下のものがふくまれます。

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| ●チューニングキーx1 | ●フロアタム用テンションボルトx12 |
| ●バスドラム・シェル(胴)x1 | ●フロアタムレッグx3 |
| ●バスドラムヘッド(フロント/打面)x1pr | ●ハイハットスタンドx1 |
| ●バスドラム用フープx1pr | ●ドラムペダルx1 |
| ●バスドラム用テンションボルト&フック ..x12 | ●ドラムペダルクランププレートx1 |
| ●タムタムx1 | ●スネアドラムx1 |
| ●タムホルダーx1 | ●スネアスタンドx1 |
| ●フロアタム・シェル(胴)x1 | ●シンバルブームスタンドx1 |
| ●フロアタムヘッドx1pr | ●バスドラムマウントシンバルホルダー x1 |
| ●フロアタム用フープx1pr | ※シンバルは含まれません。 |



ドラムセット完成図

安全にお使いいただくために

ドラムセットは本体が重くかさばります。室内での置き場所や日常の取扱いについて、安全にご使用いただけますよう、お願いいたします。また、学校もしくはご家庭で小さなお子さまがご使用になる場合は、指導者の方及びご家族の方から、お子様に適切な取り扱いを教えてあげてください。

表示記号について

本書では、本製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々に危害を及ぼすことや財産の損害を未然に防ぐための事項を下記の記号で表示しています。内容を良く理解してから組み立ての作業にお取りかかり下さい。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が負傷を負う可能性が想定される内容および、物的損傷のみが発生が想定される内容を示しています。

🙏 お願い

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。

● 外部要因によって生じた本器の故障、不具合などの損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

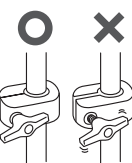
設置上のご注意

⚠ 警告

ネジ類はしっかりと締めてください。

演奏中の転倒や落下を防ぐために、ネジ類はしっかりと締めてからご使用ください。

また、角度調整にギアを用いているモデルでは、ギアをしっかりと噛み合わせで固定してください。噛み合っていない状態で無理に固定すると、演奏時の振動でシンバル等が脱落する事があります。



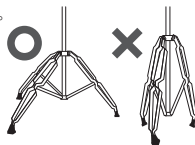
⚠ 注意

ドラムセットを設置する際の注意!

設置場所は、床面が平らで丈夫な所をお選び下さい。床が傾いたり段差があると不安定になり、転倒する恐れがあります。また、ドラムセットを室内でお使いになる場合、スタンド等で床などを傷つけたり汚したりする恐れがありますので、直接置かずカーペットなどを敷いてから設置されることをおすすめします。

転倒にご注意ください。

スタンド設置時には三脚を十分に開いてご使用ください。



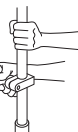
ドラムセットの周辺での「遊び」は危険です。

ドラムセットの周りで遊びますと顔や頭をぶついたり、つまずいたり転んだりする恐れがあります。お子様がドラムセットの周りで遊ばないようご注意ください。



タムホルダー、スタンドの調整時は、必ず上部を支えながら行ってください。

タムタムやスタンド類の高さや角度を調整する際に急にネジを緩めると、ドラムやシンバルの落下などで指を挟む恐れがあります。片手でタムタムや上部をしっかりと支えながらゆっくりとネジを緩めてください。



地震の時はドラムセットに近づかないでください。地震による強い揺れでドラムセットが移動したり転倒する恐れがあります。地震の際にはドラムセットに近づかないようにしてください。

取扱い上のご注意

⚠ 警告

鋭利な部分の取り扱いには、とりわけ注意して下さい。機能上、先端部分が鋭い形状となっている部品がありますので、取り扱いには十分注意して下さい。

脚の先端部にご注意下さい。

バスドラム脚やスタンド脚の先端は、演奏時の滑りを防止するため、先端が尖っており、指や手のひら、足等にけがをする恐れがありますので、取り扱いには十分注意して下さい。

スタンドの三脚を折りたたむ際は指をはさまないように。スタンドの三脚を折りたたんで収納する際、三脚で指を挟む恐れがありますので、作業には十分注意して下さい。

スタンドのパイプの切断面にご注意下さい。

スタンドをセッティングしたり収納する際に、スタンドパイプの断面で指が刺さる恐れがあります。故意もしくは不必要にパイプ内へ指を差し込まないよう、ご注意ください。

ドラムイスの上に立ったり、踏み台にしないで下さい。

ドラムイスの上に故意に立ったり踏み台の代わりに使ったりすると、シートが回転したり落下する恐れがあるので危険です。また、イス本体が倒れたりして事故が生じる恐れがあります。ドラムイスはドラム演奏の目的だけに使用して下さい。

ドラムイスの高さ調整は、腰掛けたままで行うと危険です。

イスに腰掛けた姿勢のまま高さ調整の操作をすると、シートが急激に落下し、指を挟んだり腰を痛めたりする恐れがあります。操作は必ずイスから降りて行い、スレ防止のストッパーのネジをしっかり固定してからお使い下さい。



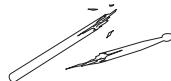
スティック類は練習演奏以外に使用しないでください。

スティックやワイヤーブラシはドラムを演奏するためのものです。人の頭や体を叩いたり投げたりといった危険な行為はしないでください。



スティックの折れた破片にご注意ください。

スティックは木製品です。演奏中に折れて破片が飛び散る可能性がありますので、あらかじめご注意ください。



ネジ部の油にご注意ください。

ドラム本体やスタンドのネジには潤滑油としてグリスが使用されています。持ち運びや設置の際に衣服に付着する恐れがありますので十分ご注意ください。

金属部品のサビや劣化にご注意ください。

金属部品は使用しているうちにサビを生じたり、傷ついたりします。サビたり腐付いた部品を強くこすって手にケガをしないようご注意ください。また、ドラムペダルやハイハットスタンドのペダルは素足で踏まないようにして下さい。

保管上のご注意

🙏 お願い

金属部品は時々乾拭きしてください。

サビを防止するために、ドラム本体の金属パーツやスタンド類は時々乾拭きしてください。

高温・多湿となる場所は避けてください。

車の中や直射日光のあたる場所に長時間本製品を保管したりしないよう、保管場所には十分注意してください。



床面を傷つけないようにご注意ください。

バスドラムレックやスタンドに使用している脚ゴムは、長時間同じ場所に設置すると床面に色うつりすることがあります。床面やカーペット、畳などを汚して傷ついたりしないためにあらかじめ厚手のカーペットや専用のマットを敷いた上に設置される事をお勧めします。

バスドラムの組み立て

バスドラムはシェル、バスドラムフープ、ヘッドとパーツが別々に梱包されていますので、下記の順で組み立ててください。

1. シェルをフロント側(バスドラムスパーの付いている方)を上にして床に置き、Pearl ログのあるフロントヘッドをかぶせ、バスドラムフープを平らな方を下にしてのせます(図1)。

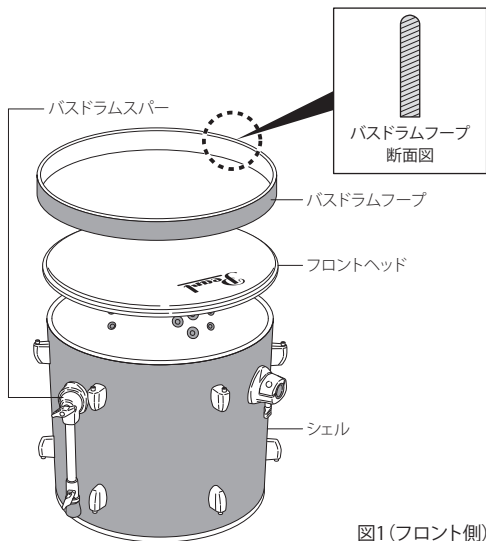


図1(フロント側)

ヒント

フロント側には切込みがないバスドラムフープをご使用ください。

2. テンションボルトをフックに通しラグにねじ込みます(図2)。指先で2~3回締めたと、付属のチューニングキーを使って締めつけます(図2)。

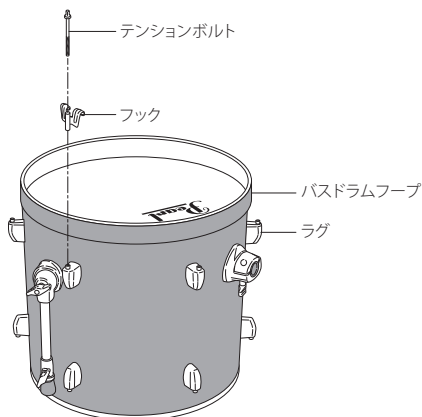


図2

3. シェルの反対側(打面側)を上にして、フロント側同様にヘッドとバスドラムフープをシェルに乗せます。バスドラムフープは切込みがクランププレートブラケットと同じ位置になるように向きを調整してください(図3)。バスドラムフープの位置が決まりましたら、フロント側と同じ手順でテンションボルトをフックに通してラグに取り付けてください(図4)。

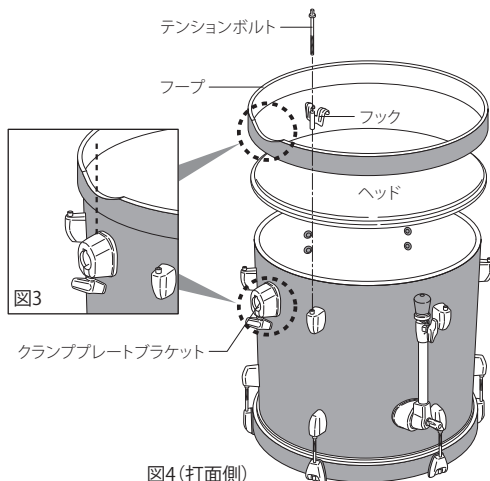


図4(打面側)

3. クランププレートブラケットにペダルクランププレートを図の向きで差し込み、ウイングボルトで固定します。バスドラムスパーはウイングナットをゆるめ、図9の位置になるように回転し、ウイングナットを締めて固定します。次にウイングボルトをゆるめスパーを伸ばします。左右のスパーが同じ長さになるよう調整して、ウイングボルトを締めて固定します。バスドラムスパーは床とのズレを防止する剣先を装備しています。必要に応じてロックナットとラバーチップを時計方向に回して剣先を出してください。(図5)。

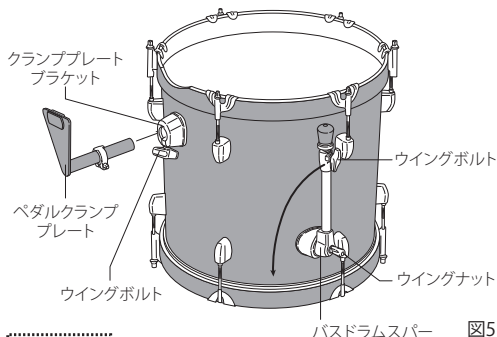


図5

注意

ケガの恐れがありますので剣先をご使用の際は取扱いに十分ご注意ください。また、剣先を出してのご使用は床を傷つける場合がありますので、厚手のカーペット等の使用をおすすめいたします。

ドラムペダルのセッティング

ピーターのシャフトをピーターホルダーの穴に差し込み、付属のチューニング・キーでキーボルトを締めて固定します(図6)。

バスドラムへの取り付けは、フットボードの下にあるフープクランプ部をペダルクランププレートにはさみ込み、ウイングボルトで固定します。バスドラムに取り付け後、ペダルを踏み込み、スプリングのテンションを好みに合うよう、上下のスプリング調整ナットで調節して下さい(図7)。

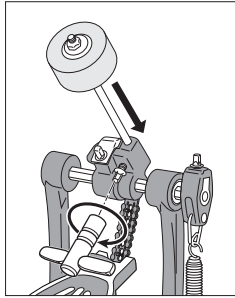


図6

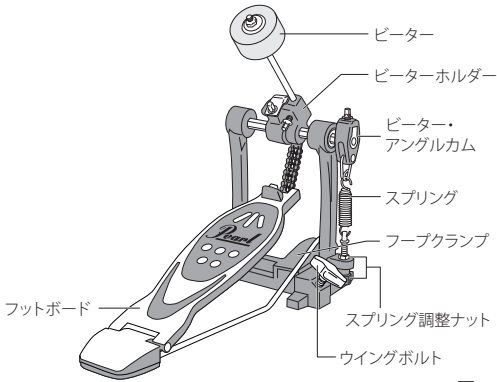


図7

ヒント

スプリングのテンションを変えずにピーターの角度を無段階に調整することができます。付属のチューニング・キーを使ってキーボルトを緩め、好みの角度が決まりましたら、再び締めて固定して下さい(図8)。

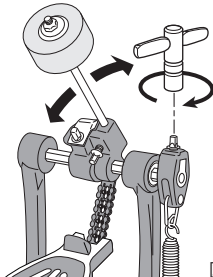


図8

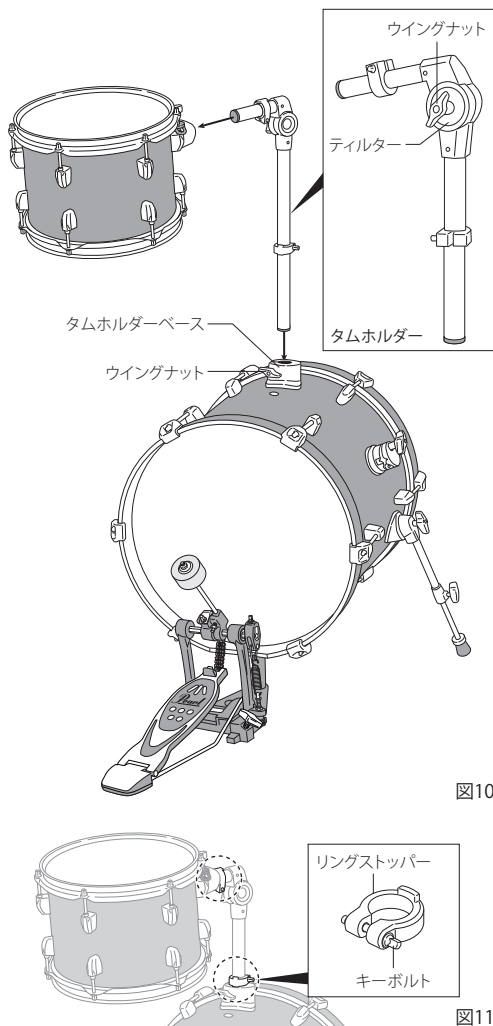
バスドラムを図9のようにたてて、ドラムペダルをペダルクランププレートに取り付けてください。必要に応じてスパーとペダルクランププレートの高さを調整してください。その際、バスドラムが倒れないように片方の手で支えてください。調整が完了したらスパーとバスドラムブラケットのウイングボルト、ペダルクランププレートのストップロックがしっかりと締まっていることをご確認ください(図9)。



図9

タムタムのセッティング

タムホルダーをバスドラムのタムホルダーベースに差し込み、タムホルダーベースのウイングナットを締めて固定します。次にタムホルダーのウイングナットをゆるめて調整し、角度が決まりましたらウイングナットをしっかりと締めます。続いてタムタムをタムホルダーのパイプに取り付け、タムタムのマウントのウイングナットを締めて固定します。演奏しやすい位置にタムホルダーの高さ、角度を調整してください(図10)。

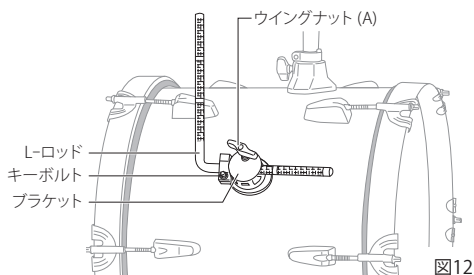


ヒント

タムホルダーには回転、ズレ防止のためのリングストッパーが付いています。タムタムの位置が決まりましたら、リングストッパーをそれぞれタムホルダーベースとタムタムのマウントにあるみぞにはめ込み、付属のチューニングキーを使ってキーボルトを締めて固定してください(図11)。

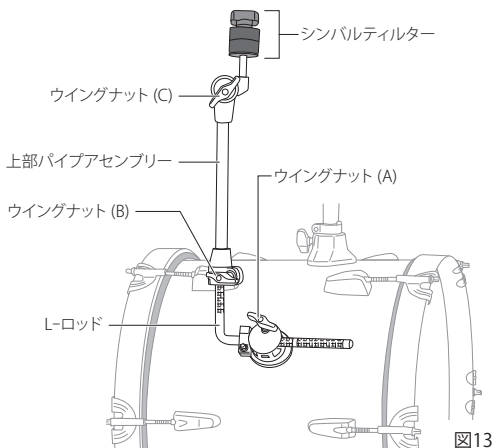
シンバルホルダーのセッティング

ブラケットにL-ロッドを差し込み、ウイングナットを締めます。L-ロッドには回転防止のストップロックが付いています。ストップロックをブラケットの凹みにはめこみ、ドラムキーでキーボルトをしっかりと締めてください(図12)。



L-ロッドに上部パイプアセンブリーを差し込み、シンバルティルターの角度、向き、および高さを調整します。お好みの位置に調整できたらウイングナット (A,B,C) をしっかりと締めて固定します(図13)。

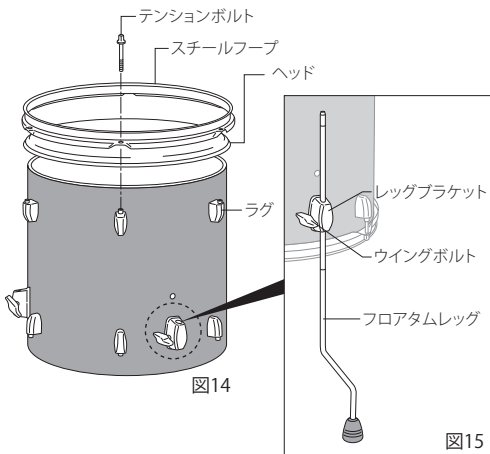
シンバルをシンバルティルターに取り付け、しっかりと固定します。



フロアタムの組み立て

フロアタムはシェル、スチールフープ、ヘッドとフロアタムレッグが別々に梱包されていますので、下記の順で組み立ててください。

1. シェルを図 14 のように打面側を上にして床に置き、ヘッドをかぶせ、その上にスチールフープをのせます。
2. スチールフープにテンションボルトを通し、ラグにねじ込みます。指先で 2~3 回締めたと、付属のチューニングキーを使って締めつけます。
3. ボトム側も同じ手順でヘッドとスチールフープを取り付けます。
4. フロアタムレッグをレッグブラケットに差し込みます。フロアタムがお好みの高さ・角度になるよう調節し、ウイングボルトを締めて固定します (図 15)。



ハイハットスタンドのセッティング

フットボード & 脚部のセッティング

脚部を適度に開き、フットボード下のラジャスロッドの先端 (左右とも) をメインポストの接続部 (穴) に差し込みます。メインポストが垂直に立っている事を確認したら、ウイングボルトを締めて、脚部を固定します (図 16)。

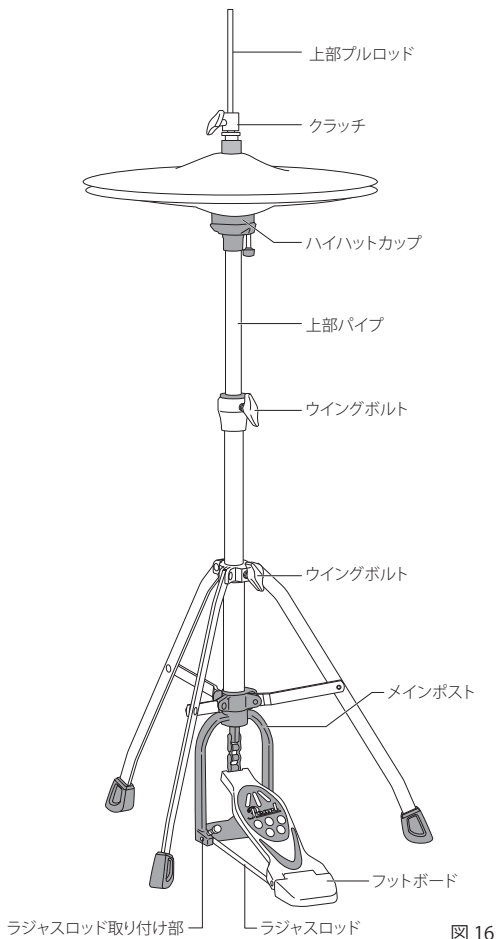
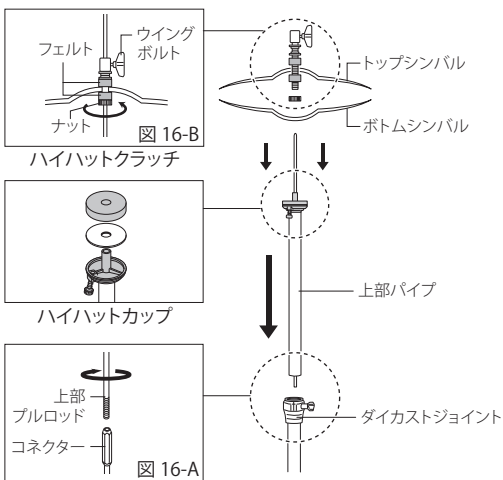


図 16

上部の組立て

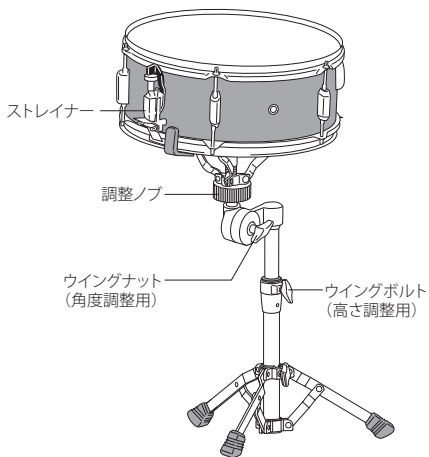
脚部のダイカストジョイント内のプルロッド先端コネクターに、上部のプルロッドを差し込み、止まるまでネジ込みます (図 16-A)。上部パイプを上部プルロッドに通して上から差し込み、好みの高さに調整してダイカストジョイントのウイングボルトで固定します。

2枚のハイハットシンバルの内、ボトム用シンバルをカップに乗せます。トップ用シンバルはハイハットクラッチの2枚のフェルトの間にはさみ、ナットで下から固定し、プルロッドに上から差し込みます (図 16-B)。シンバルの間隔を調整するには、フットボードのペダルを踏み込み、上下のシンバルに適度な隙間ができる位置でハイハットクラッチのウイングボルトを締めてください。



スネアドラムのセッティング

脚部を適度に開き、スネアスタンドのバスケット部(上部)を広げ、スネアドラムをのせてから調整ノブで固定します。その際、ストレイナー(スイッチ)は左手(左利きの場合は右手)で自由に操作できる位置にしておきます。叩きやすい高さ、角度になるよう、各部のボルト/ナットを使って調整し、位置が決まったら再び締めてしっかりと固定して下さい (図 17)。



※各スタンドのセッティングポジションは"ドラムセット完成図"を参照して下さい。

チューニング

基本的なチューニング(音合わせ)方法を、スネアドラムを例にとり、ご紹介します。

まず、対角線上にあるテンションボルトをそれぞれ少しずつ締めながら、全体のピッチを上げていきます(図18)。

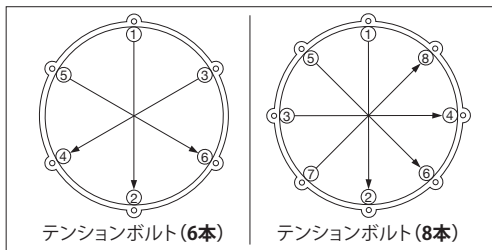


図 18

テンションボルトから 20-30mm 離れたヘッドのチューニングポイントをスティックなどで軽く叩き、ピッチ(音程)を整えます。ピッチがバラついていたら、テンションボルトの締め具合を調節して整えます(図19)。

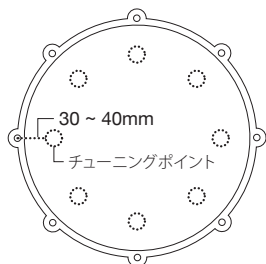


図 19

ヒント

- タムタムやバスドラムなどのチューニングも基本的には同じですが、一般的なロックサウンドをつくるには、裏側(ボトム)のヘッドのピッチを打面側(トップ)よりやや高めにしておくとよいでしょう。
- バスドラムの場合、ミュート(ヘッドの振動を抑えること)をすると音が締まって叩きやすくなったり、フロントヘッドに穴をあけると音のヌケがよくなる場合があります。一般的なミュートとしては、毛布などをバスドラムの中に入れてたりする方法があります。
- 新しいヘッドはドラムのエッジによくなじませてからチューニングすることをおすすめします。

注意

- 演奏の前に各スタンド、ドラム、パーツのウイングナット、ウイングボルト、キーボルト等がしっかり締まっていることをご確認ください。

- ※各スタンドのセッティングポジションは"ドラムセット完成参考図"を参照してください。

Pearl

パール楽器製造株式会社

〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田593-1

電話：047-450-1090 (テクニカルサポート)

<https://pearldrum.com>

製品改良のため予告なくデザイン・仕様を変更する場合がありますので御了承下さい。